



◇指導方法

黒板をいくつかの区切り、学習の内容を順に表記する。教師のチェック項目・自分で工夫を凝らすところ・本時のポイントを盛り込み、自分で判断して学習を進められるように板書する。

ネームプレートを学習の進行に合わせて移動させるように伝え、そのつど、点検させていく。

教師は全体の進行状況を把握しながら、支援の必要なこの様子を見守る。場合によっては直接の支援を行う。

◇指導のねらい

普通学級において、全体指導の中では、行程の説明が理解しづらい子にわかりやすく学習情報を伝える。

◇指導の評価

全体指導の中では、学習内容の説明が理解しづらい子も、自分のネームプレートを移動しながら学習内容が確認でき、スムーズに進めていくことができました。(ここでは版画を作成中)

個別にスケジュール表を持たせる方法もあるが、普通学級内では、個別の把握が難しくなる。そこで、板書を活用し、大きくわかりやすく掲示することで、子どもたちは自分で考え学習を進めることができ、また、一人の担任でもゆとりが生まれ、支援がしやすくなります。

障害のある子の療育理論

TEACCHプログラム参照